

第一内科後期研修プログラム

◆目標

研修医の高い QOL を保ちつつ、生涯を通じて活躍できる優れた内科医を育成する。

◆背景

社会の変遷に伴って内科医教育の混迷が見られるが、内科医教育の本質は何ら変わることはない。この本質から離れることなく新時代を切り開く新たな研修プログラムを実行することが教室の使命である。第一内科プログラムでは医師の QOL を大幅に見直すとともに、急速に進みつつある知的基盤社会への対応能力の強化と内科医に求められる人材育成教育を取り入れ、教室を離れて 10 年は勿論、30 年、40 年を経ても開業医・勤務医・研究医として適正で優れた内科医として活躍できる医師を育てる。

◆プログラムの具体的内容

- 1) 内科研修医の十分な給与・労働時間短縮などの QOL の確保
- 2) USM(United Specialities of Medicine)による全人的医療の達成
- 3) 完全主治医性と、それを支える教育体制
- 4) 最先端医療の効率的習得
- 5) 知的基盤社会への対応能力の強化
- 6) 人材育成教育

◆第一内科後期研修プログラムの支柱

1. QOL の確保

- A. 高給確保（40 万円以上）
- B. 就業時間（AM8:00~PM6:00）
- C. 当直月 2 回まで
- D. 完全週休 2 日
- E. 年休あり（連続休暇可能）
- F. 論文作成ならびに別冊費用補助
- G. 女性医師専用当直室・控室あり
- H. 出産・育児に対する配慮

2. 臨床教育

A. 全人的医療教育

- ・主治医として活躍
(指導医からの助言を受けながら，入院患者の主治医として主体的に診療を行う.)
- ・第一内科症例ラウンド
(問題症例や興味深い症例を中心に回診する.)
- ・モーニングカンファレンス
(毎朝 8 時より，前日入院した症例について第一内科スタッフ全員で検査データ，診断，治療方針の確認を行う.)
- ・USM 合同症例カンファレンス
(週 1 回，興味深い症例を中心に，本院全内科で症例検討を行う.)
- ・研修医クルズス
(週 2 回，各専門科より，毎週テーマ絞って各疾患についての講義を行う.)

B. 臓器別内科による効率的な最先端医療の修得

- ・臓器別内科カンファレンス
(各臓器別内科にて治療方針を立てる.)
- ・科長回診
(週 1 回，科長回診で，担当症例の診断・治療の進行状況等についてプレゼンテーションを行う.)
- ・チーム医療回診
(週 1 回，入院中の全症例について，診断・治療の進行状況や問題点の有無について確認する.)

3. 知的基盤社会 (knowledge-based society) 教育

知識基盤社会：新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会

A. 基礎・臨床研究

(博士号にかかわらず，希望に応じて研究を行い知的基盤を作り上げる)

B. CPC

(月 1 回，CPC を通じて内科を学ぶ)

C. 最新医療カンファレンズ

(まとまったテーマについて最新医学を学ぶ)

D. 論文 (症例報告等) 作成を学ぶ

- E. 学会参加による知的刺激
- F. 抄読会による文献の基礎的見方の学習

4. 人材教育

- A. 企画・開発能力教育
- B. コミュニケーション能力教育
 - 会いたい人 to ランチ（各界著名人とのランチ）
 - 英語 de ランチ（外国人講師とのランチ）
 - グルメ na ランチ（研修医同士のコミュニケーション）
- C. プレゼンテーション能力向上
 - 症例から得られた知見，文献や EBM 等を考察して紹介する